

防災通信 No.23

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらおよせください。

(グリーンテラス本郷台自治会)

地震！

2021年10月7日夜、首都圏で最大震度5強の地震がありました。東京23区内で震度5強を観測したのは、2011年3月11日の東日本大震災以来のことです。さいわい亡くなった人はいませんが、電車が止まり自宅に戻れない人がたくさんいました。あちこちで水道管が破裂し、老朽化した設備のもろさも見せました。震源は千葉県北西部で深さは75キロ、地震の規模を示すマグニチュードは5.9でした。

政府の地震調査委員会によると、「今回の地震は震源が深く規模も小さいので、予測されている首都直下地震とは関係ない」としていますが、本当の首都直下地震がくればどんなに大変なことになるだろうと思わされました。



【首都直下地震】

関東の南部で起こる巨大地震のことです。

地球は何枚もの岩盤（プレート）でおおわれています。関東周辺は地下で三つのプレートがせめぎあう世界的にも珍しい複雑な場所です。プレートの境界では構造的に地震が起こりやすくなっています。また、地震は岩盤の割れ目（活断層）がずれて起こる場合もあります。関東には活断層も多く、このタイプの地震の可能性もあります。関東周辺のどこで起こってもおかしくありませんが、首都の真下が震源になると被害が巨大になるため、首都直下地震という名称をつけて警戒しているわけです。

政府の地震調査委員会が、今後30年以内に70%の確率で発生すると推計しているマグニチュード7クラスの大地震です。

その根拠は、過去の地震の周期です。関東南部では1703年の元禄 関東地震から1923年の関東大震災まで大きな地震が8回起きています。単純に計算すると27.5年に1回起きていることになります。

関東大震災以降は、首都圏でマグニチュード7以上の大きな地震はありません。

100年近くたってそろそろ起きてもおかしくないと考えられているものです。

【就寝中に緊急地震速報が発表されたときの行動】



①まずは落ち着く

事前の備えの有無に関わらず、震災時にまず大切なのは落ち着いた行動をとること。

②灯りの確保

最初の大きな揺れの発生が夜だった場合や停電が発生した場合、行動するには懐中電灯などが必須。

③靴をはく

散乱した家具や割れたガラスなどがあると屋内でも足元は危険。枕元に靴の準備をしておくが良い。

④身支度（防寒など）

避難するときは動きやすい格好で、冬場は寒さ対策も重要。場合によっては雨具なども必要。

⑤情報収集と判断

避難時に必要なのは正しい情報、すばやく避難行動をとるために情報収集はとても大切です。

⑥防災グッズ装着と携行

地震後に思わぬ怪我などをしないよう、軍手やマスクの準備を。また、防災グッズの中には保存のきく非常食と水を準備できていますか。

⑦避難ルート決定

どこに避難したらいい・・・？ どうやってそこまでいったらいい・・・？ 事前の準備で大きな差がでます。

「いざ！」というときにすばやく行動することが出来るよう、日頃からの備えを万全に！



**防災は日頃からの備えがとても重要です。
その時になってパニックにならないために、
今できることは全てやっておきましょう。**